

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立思斉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

- |  |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。<br>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

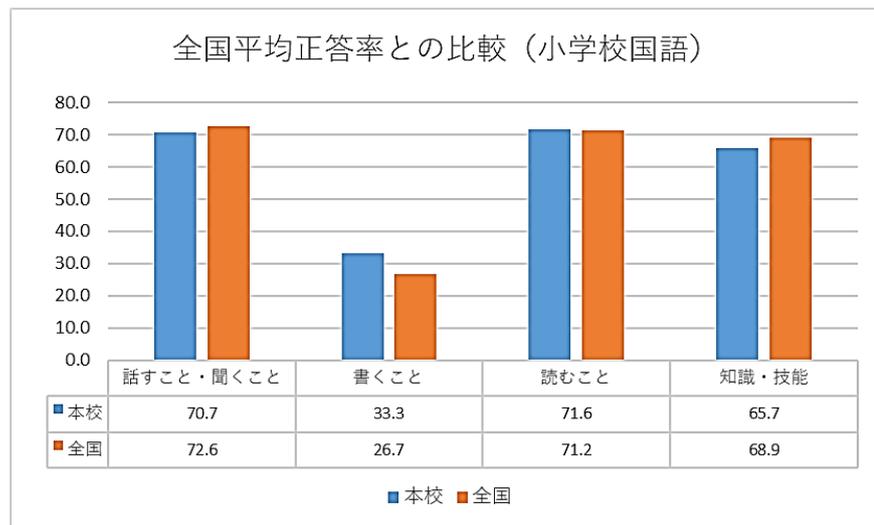
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」が 6.6 ポイント上回りました。これは、昨年度より全校で取り組んできた取組の成果であると捉えています。授業中に「書く」場面を設定し、自分の考えや振り返りなどを書くことを積み重ねてきました。また、週末課題として作文に取り組む、書くことに慣れることで、書くことへの苦手意識を減らしてきました。このような日頃の取組が今回の正答率につながっていると思われます。しかし、全国平均正答率は上回っているものの、苦手としている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

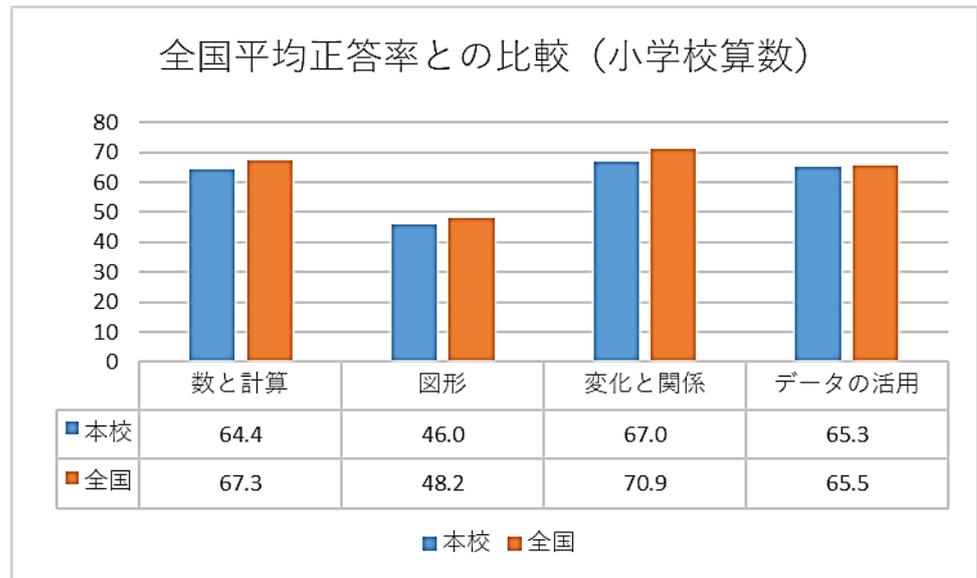
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 全校で「書く力」を伸ばすことを目的とした取組を実践し、低学年のころから書くことに親しみ、書くことの楽しさを楽しむことのできる児童の育成を目指していきます。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数



### (1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。全ての領域で全国平均をやや下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、(2 位数) ÷ (1 位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題の正答率が全国平均を上回っていました。しかし、( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る問題の正答率が全国平均を下回っていました。また、 $50 \times 40$  の計算をする問題においても全国平均を下回る結果であったため、計算力の向上が今後の課題として見えてきました。

さらに、( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が、全国平均と比べて 15 ポイント下回っていました。これは、式の意味を正しく理解できていないということです。今後、普段の授業から式の意味を考えさせたり、式を見て説明させたりすることを通して、式の意味を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。
- スキルタイムなどの時間を利用して、学習したことの復習や積み上げを行っていきます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	81.0%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	30.4%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.6%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	31.6%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	69.6%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.0%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.8%	82.6%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。「自分にはよいところがあると思いますか」という項目において、全国平均を10ポイント以上下回っていました。道徳や日常の学校生活の中で、自分のよさを見つけ、自信がつくように取り組みます。将来の夢や目標を持つことや規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	24.1%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	2.5%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.7%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	39.2%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	36.7%	26.9%
「30分より少ない」	5.1%	11.4%
「全くしない」	3.8%	4.6%

家庭学習については、「1時間以上、2時間より少ない」児童と「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童が合わせて75.9%を占めていました。「30分より少ない」児童や「全く家庭学習をしていない」児童もみられ、かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。決められた宿題の他に、自主学習や読書など、学年に応じた学習時間を意識して家庭学習に取り組めるようにします。
- 全校で取り組む「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」や「家庭学習がんばろう週間」では、生活習慣の改善および家庭学習の定着を目指します。
- 児童のよさを見つけ、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を今後も進めていきます。

##### 【ご家庭では】

- 低学年のときから、決まった時間に決まった場所で学習する習慣をつけ、学習の様子に励ましや称賛の声かけをお願いします。ゲームをする時間、テレビを見る時間、勉強する時間など、家庭の決まりをお子様と一緒に考えることも習慣化の一つの手立てになると思います。